

ライフコース分科会 2024 年度活動報告

ライフコース分科会では、日本発達心理学会第 36 回大会において、ラウンドテーブル「20 世紀初頭に生まれたアメリカ人の 1 世紀にわたる人生（2）：『大恐慌の子どもたち』の親世代のライフコース」を 2025 年 3 月 4 日に実施いたしました。発表抄録を次頁に掲載いたします。

また、上記と関連いたしますが、分科会メンバーを中心に「『大恐慌の子どもたち』親世代のライフコース—20 世紀を生きたアメリカ人の家族・ジェンダー・人間発達」を邦訳し、2025 年 4 月に明石書店より出版予定です。これも次次頁に掲載いたします。

2025 年 3 月 14 日

ライフコース分科会代表

岡林秀樹（明星大学）

20 世紀初頭に生まれたアメリカ人の 1 世紀にわたる人生（2）

『大恐慌の子どもたち』の親世代のライフコース

企 画：	日本発達心理学会ライフコース分科会
司 会：	岡林 秀樹 明星大学
話題提供者：	玉井 航太 [#] 北海商科大学
話題提供者：	中尾 暢見 [#] 日本大学
話題提供者：	松本 聡子 [#] お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所
話題提供者：	高橋麻菜美 川口市役所
話題提供者：	関 憲治 [#] 昭和女子大学
話題提供者：	矢代佐代子 明星大学

[企画主旨]

グレン・H・エルダーたちが 2021 年に著した *Living on the edge: An American generation's journey through the 20th century* を邦訳する機会を得た。1900 年前後に生まれ、カリフォルニア州バークリーに移住してきた『大恐慌の子どもたち』（Elder, 1974）の親世代（以下 1900 年世代とする）が 20 世紀を通して、どのようなライフコースを辿ったのかを紹介し、わが国における研究の発展可能性について考えたい。

第 3 章 男たちの生き方（玉井航太）：1920 年代、バークリーの男たちは、教育を終え、経済的に安定したキャリアを確立し、家庭を築くことに忙しくなった。一般にバークリーの男たちは出自によって社会経済的キャリアのスタートの違いがあったが、当時の教育機会の急速な拡大は、家庭の地位に基づいた予測を覆しうる数多くの選択肢を男たちに与えていた。そして、1900 年世代の 2 つのコホートにおける中流階級と労働者階級の比較は、バークリーの男たちの職歴、家や車の所有、その他の投資や貯蓄、証券の取得といった収入や生活水準といった生活環境の違いを明らかにしていた。

第 6 章 災厄と恩恵（中尾暢見）：1929 年の大恐慌以降、歴史的な嵐にさらされてきたバークリーの家族が第二次世界大戦の軍需による景気回復を迎えるまで、時代の荒波をどのように乗り越えてきたのかが社会階級と大恐慌による剥奪経験の有無の観点から明らかにされている。剥奪を経験し、苦境に立たされた層と、剥奪を経験せずに、支出を見直すことを通して貯蓄と余暇時間を増やすことのできた層では、学歴、職能、行動力、家族力が、雇用形態、失業、減収、借金、公的支援の活用の面で明暗を分かち資源であった。

第 7 章 窮乏が深刻化した時期（松本聡子）：大恐慌による経済的損失は、社会的地位の変化をもたらしたが、この状況に敏感に反応したのは中流階級の家族であった。例えば、経済的損失が大きい場合、家庭の経済的な状況に対する不安感と家計（支出）に関する配偶者間の葛藤は、中流階級において強いことが示唆された。また、大恐慌による経済的損失は、大恐慌以前に情緒的健康状態が不安定だった男性において、大恐慌下における情緒的健康状態に対してネガティブな影響を及ぼしていた。

第 9 章 親族との関わり（高橋麻菜美）：バークリーのほとんどの家族は、親族との援助の授受によって大恐慌による経済的困窮を切り抜けようとした。2 つの主要な援助の形態は、物質援助と親族との同居である。物質的援助の授受は中流階級よりも労働者階級の方が多く、若い世帯主よりも年配の世帯主の家族の方が援助を提供する可能性が高かった。親族との同居には、資源を貯蓄したり節約したりするメリットもあるが、一方で親族の存在に伴う緊張というコストもあることが明らかになった。

第 10 章 戦争の家庭への影響（関憲治）：大恐慌後の 10 年間、バークリーの家族の大多数は困窮に苦しんでいたが、その後、第二次世界大戦を迎え、戦時動員された町の生活に適応していった。そこでは、軍需産業を始めとする仕事が増え、長時間労働と生活テンポの加速化が、バークリーの家族に様々な影響を与えた。例えば、徴兵された息子の代わりに高齢の父親が戦争関連物資の輸送に携わったのである。日本による真珠湾攻撃後は、カリフォルニア沿岸への攻撃の脅威から、太平洋側にいる日本人は、市民かどうかに関わらず、一斉に検挙され監禁された。

第 12 章 世代から世代へ（矢代佐枝子）：科学的研究の知見に恵まれた 1900 年世代は、しつけ方略についての科学的知識を用いて子育てを行った。1900 年世代は、「子どもを家族生活の中心的存在となる人間とみなす」という新しい子ども観を持ち、親になることや、ジェンダーについての考え方、息子・娘への期待など、様々な面で大きな変化を経験した。1900 年世代は、子育てについての歴史の転換を経験した世代であり、その経験は、現在の親が抱える問題や葛藤と多くの点で共通していた。

「大恐慌の子どもたち」 親世代のライフコース

20世紀を生きたアメリカ人の
家族・ジェンダー・人間発達

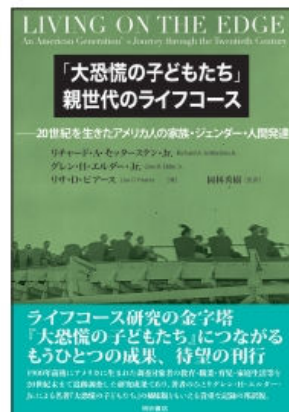
2025年4月 発行

リチャード・A・セッターステン・Jr. /
グレン・H・エルダー・Jr. / リサ・D・ピアース [著]
岡林秀樹 [監訳]

ライフコース研究の金字塔「大恐慌の子どもたち」

につながるもうひとつの成果、待望の刊行

ライフコース研究の金字塔「大恐慌の子どもたち」の著者グレン・エルダーらが、1900年前後に生まれた西海岸・パークリーの調査対象者の教育・職業・育児・家庭生活等を20世紀末まで追跡調査した研究成果であり、名著「大恐慌の子どもたち」の姉妹版ともいえる貴重な記録の邦訳版。



◆ 内容構成 ◆

第1部 未知の世界に踏み出すこと

第1章 新世紀のアメリカ人——1900年代

第2部 人生を切り開く——1910-30年

第2章 カリフォルニアにやって来たぞ！

第3章 男性たちの生き方

第4章 女性たちの生き方

第5章 結婚生活での共同と別離

第3部 大恐慌の時代——最悪と最良の時代

第6章 災厄と恩恵

第7章 深刻化する窮乏期

第8章 苦難の時代の育児

第9章 親族との関わり

第4部 国内での戦争

第10章 戦争の家庭への影響

第11章 働く女性たち

第12章 世代から世代へ

第5部 時代と人生の変化

第13章 老年期に過去を振り返る

付録

監訳者あとがき

● 定価 6,380円 (本体5,800円 + 税)

ISBN 978-4-7503-5917-5

A5判 / 上製 / 416頁

◆ 著者紹介 ◆

グレン・H・エルダー・Jr.

ノースカロライナ大学チャペルヒル校オールド社会学卓越研究教授、ライフコース研究の第一人者として、主著「大恐慌の子どもたち」(「完全版」が明石書店より2023年刊)。

リチャード・A・セッターステン・Jr.

オレゴン州立大学卓越教授(ライフコース・人間発達学)

リサ・D・ピアース

ノースカロライナ大学チャペルヒル校社会学部教授・学科長

◆ 監訳者紹介 ◆

岡林秀樹

明星大学心理学部教授。専門領域：生涯発達心理学、老年心理学、ライフコース論。訳書に『「完全版」大恐慌の子どもたち——社会変動とライフコース』(共訳、グレン・H・エルダー・Jr. 著、明石書店、2023)、『ライフコース研究の技法——多様なダイナミックな人生を捉えるために』(監訳、グレン・H・エルダー・Jr./ジャネット・Z・ジール編著、明石書店、2013)など。

ご注文方法

◎書店購入の場合

このチラシを最寄りの書店へ持参の上、ご注文下さい。

◎直接販売：クレジットカード決済

右のQRコードからクレジットカード決済をいただいた方には、送料無料で直送いたします。

◎直接販売：請求書払い

郵便局の振込用紙を同封して発送いたします。
公費支払いをご希望の方は公費書類の同封も可能です。
どちらの場合も、書籍代に加えて手数料一律500円をご負担いただいておりますのでご了承ください。



番線印
冊

「大恐慌の子どもたち」親世代のライフコース

20世紀を生きたアメリカ人の家族・ジェンダー・人間発達

リチャード・A・セッターステン・Jr. / グレン・H・エルダー・Jr. / リサ・D・ピアース [著]
岡林秀樹 [監訳]

● 定価 6,380円
(本体5,800円 + 税)

ISBN 978-4-7503-5917-5

フリガナ

TEL

お名前

ご住所 〒

明石書店

〒101-0021
東京都千代田区外神田6-9-5
TEL.03-5818-1171
FAX.03-5818-1174
URL=https://www.akashi.co.jp/
E-mail=eigyo@akashi.co.jp
■図書目録送呈